

小委員会の調査報告書

<p>教科名</p>	<p>国語（書写）</p>	<p>委員長名 久保 俊博</p>
<p>調査研究の経過</p>	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月1日（火）に、稚内市役所正庁で開催し、書写小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月2日（水）から7月13日（日）まで、「教科書見本本」、「教科書編集趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月14日（月）に、稚内市役所正庁で開催し、報告書の作成を行った。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者（略称）は、東書、学図、三省堂、教出、光村、日文の6者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱い内容」について</p> <p>(2) 「内容の程度・配列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮」について</p> <p>(4) 「その他」</p>	
<p>調査研究に当たった際の配慮事項</p>	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱内容」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の習得、活用、探究に対応できるよう、既に学習した内容の系統的な反復学習や練習問題などによる繰り返し学習に関する内容、観察・実験やレポートの作成に関する内容、他教科との関連する内容、補充的な学習や発展的な学習に関する内容、実生活・実社会に関する内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・配列、分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・配列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的、発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、領域等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 児童の学習意欲を高める工夫がなされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫がなされているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>4 「その他」について</p> <p>上記1～3に含まれないもので、全体を通じて特色があれば記載する。</p>	
<p>少数意見その他</p>	<p></p>	

様式 2

教科名		国 語 (書写)				
	出版社名	教科書名	番 号	出版社名	教科書名	番 号
		東京書籍	新編 新しい書写	2	学校図書	みんなと学ぶ 小学校書写
取 扱 内 容	<p>○硬筆については、低学年では文字を正しく書くことを、中学年では形を整えて書くことを、そして高学年では文字の大きさや配列などを決めて書くことを重視しながら目標を達成できるようになっている。</p> <p>○毛筆については、中学年では、点画の形とその形を作る筆の動き、筆圧などに注意して書く活動を、高学年では、小筆やペンなどを使用して点画相互や文字のつながりを意識して書く活動などを取り入れている。</p> <p>○硬筆と毛筆の関連については、硬筆から導入することで、日常書いている文字をよりよくするという意識を高める工夫がなされている。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「生活に広げよう」という活動を設定し、1年間の行事に合わせて活用できるよう配慮している。</p>			<p>○硬筆については、低学年においては文字を正しく書いたり、文字の形を整えて書くこと等基礎基本を重視する内容となっており、高学年においてはカードやポスター用紙など様々な用紙に合わせて書く活動を取り入れている。</p> <p>○毛筆については、筆の動きに注意しながら点画の種類を理解し筆圧などに注意して書いたり、小筆や筆ペンの使用を通して、穂先の動きや点画のつながりを意識して書くことができるようになっている。</p> <p>○毛筆と硬筆の関連については、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、書写の能力の基礎を身につける内容となっている。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「資料」において、実生活との関連を計った活動を取り入れられている。</p>		
内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量 等	<p>○内容の構成については、児童の発達段階を考慮し、低学年では点画・筆使い、中学年では字形の整え方、高学年では配列・点画のつながりの学習を設定している。</p> <p>○内容の配列については、基礎的な筆遣いなどの学習の後に、文字の大きさや字間の配列について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○内容の分量については、第1学年～41p、第2学年～41p、第3学年～49p、第4学年～49p、第5学年49p(9%増)、第6学年～49p(9%増)となっている。</p>			<p>○内容の構成については、低学年では点画、筆順、字形等硬筆の基礎基本を、中学年では始筆、送筆、終筆等毛筆の基礎基本を、高学年では配列、字配りに重点を置いている。</p> <p>○内容の配列については、基礎的内容を学年に応じて発展させながら、系統的・発展的に学習できるようになっている。</p> <p>○内容の分量については、第1学年～41p(11%増)、第2学年～41p(24%増)、第3学年～49p(0%増)、第4学年～45p(10%増)、第5学年～45p(10%増)、第6学年～41p(9%減)となっている。</p>		
使 用 上 の 配 慮	<p>○教科書紙面をワイドにすることで書き込み欄が増え、児童が練習できるように工夫されている。</p> <p>○全学年に1ページずつノート例を示し、書写で学習したことを他教科や実生活で活かすことができるように工夫がされている。</p> <p>○童謡や古文・漢文などの教材を配置し、書くことを通して文章を味わう経験ができる。</p>			<p>○硬筆と毛筆のポイントを説明するキャラクターが登場したり、国語の教科用図書との関連を図った教材を掲載するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○自己評価欄を設けたり、直接書き込むスペースを確保するなど、児童が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○巻頭の「学習のめあて」や、裏表紙に「保護者の方へ」を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>		
そ の 他	<p>○毛筆教材の左側にインデックスを設けて、既習事項と参照ページを示し、児童が主体的に学習を進めることができるような配慮がなされている。</p>			<p>○色覚特性に配慮した配色を工夫するなど、使用上の便宜が図られている。</p>		

様式2

教科名		国語(書写)				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		三省堂	小学生の書写	15	教育出版	小学書写
取 扱 内 容	<p>○硬筆については、文字の大きさや配列を学び、用紙全体との関係に注意しながら形を整えて書く技能が段階的に確実に身につけられるようになっている。</p> <p>○毛筆については、特に初期段階を丁寧に扱い、毛筆の特性を理解し、姿勢や筆の持ち方、腕の動かし方を体得しながら学習できるようになっている。</p> <p>○硬筆と毛筆の関連については、毛筆で理解したことを硬筆で確かめるという学習過程を各教材で設定し、関連をはかりながら書写技能が習得できるようになっている。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探求への対応については、他教科の学習や日常生活の中での字を書く場面を積極的に取り上げることで、身につけた技能を様々な場面で活用できるようになっている。</p>			<p>○硬筆については、低学年で画の付き方や交わり方、中学年では文字の組み立て方、高学年では様々な用紙に合わせて書く活動を取り入れている。</p> <p>○毛筆については、中学年では点画の種類を理解し筆圧などに注意して書いたり、高学年では点画相互、文字のつながりを意識して書く活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くようになっている。</p> <p>○硬筆と毛筆の関連については、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身につけるようになっている。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探求への対応については、各学年で「書いて伝えよう」を通して、実生活との関連を図った活動ができるようになっている。</p>		
	内容の構成・配列・分量等	<p>○内容の構成については、発達段階を考慮して、低・中・高学年それぞれの段階にふさわしい書写の学習が効果的に行えるように留意されている。</p> <p>○内容の配列については、まず基礎基本を習得し、次に目的や状況を判断しながら書く場面が設定され、学んだことを日常生活に生かすことができるように学習が展開されている。</p> <p>○内容の分量については、第1学年～41P(3%増)、第2学年～41P(3%増)、第3学年～45P(2%増)、第4学年～45P(2%増)、第5学年～45P(2%増)、第6学年～45P(2%増)となっている。</p>			<p>○内容の構成については、文字の書き方の秩序性を理解し習得するため、姿勢・執筆や筆使い、字形の整え方などの基礎基本が、確実に身につくようになっている。</p> <p>○内容の配列については、点画の接し方や交わり方、漢字の筆順、字間、余白などについて扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がされている。</p> <p>○内容の分量については、第1学年～45P(13%増)、第2学年～41P(3%増)、第3学年～59P(13%増)、第4学年～57P(10%増)、第5学年～49P(11%増)、第6学年～49P(11%増)となっている。</p>	
使用上の配慮	<p>○学習のガイダンスをするキャラクターの登場や、国語の教科用図書との関連をはかった教材を掲載し、学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○児童に文字の形や配列における修正点を指摘させたり、自己評価欄を設けたりするなど、主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○巻頭に書写に関連した教材を、巻末に学習の補助となる資料を掲載したりするなど、児童の意欲を高める工夫がなされている。</p>			<p>○学習のガイダンスをするキャラクターが登場したり、国語の教科用図書との関連をはかった教材を掲載し、学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○学習のポイントや他の文字で応用を図る段階を示したり、自己評価欄を設けたりするなど児童が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○巻頭に書写に関連した教材や、筆記具の持ち方を示したり、レイアウトや表現方法などを工夫するなど使用上の便宜が図られている。</p>		
その他	<p>○低学年においては自己評価欄に貼る「できたかなシール」を添付し楽しく学べるよう工夫されている。</p>			<p>○子どもの興味・関心、習熟度に応じて発展的に学習できる「はってん」コラムを掲載し、個に応じた学習ができるよう工夫されている。</p>		

様式2

教科名		国語(書写)				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		光村図書	書写	38	日文	小学書写
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 硬筆については、低学年では文字を正しく、形を整えること。高学年では文字の大きさや配列を決めて書くことを取り入れている。 ○ 毛筆については、点画の種類、筆圧、点画相互、文字のつながりを意識して書く力を養うことができるようになってきている。 ○ 硬筆と毛筆の関連では、毛筆で学習したことが硬筆で生きるよう、教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題を設けて書写能力の基礎を養うことができるようになってきている。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 硬筆については、低学年では文字を正しく、文字の形を整えること。高学年では、文字の大きさや配列などを決めて書くことを取り入れている。 ○ 毛筆については、点画の種類を理解し筆圧などに注意したり、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことができるようになってきている。 ○ 硬筆と毛筆の関連では、毛筆で学んだ事を生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身につけられるようになってきている。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識・技能の習得、活用、探求への対応については、はがきや手紙、新聞を書いたりするなど、実生活との関連を図った活動を取り入れている。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識・技能の習得、活用、探求への対応については、「広がる学び」において、絵日記・手紙・ポスターを書いたりするなど、実生活との関連を図った活動を取り上げている。 		
内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、課題発見から解決までのプロセスを通して、書写の原理・原則を主体的に学び取ると同時に、思考力・判断力・表現力を養えるよう配慮している。 ○ 内容の配列については、各学年とも発達段階に応じて系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、第1学年39p(22%増)、第2学年37p(16%増)、第3学年55p(15%増)、第4学年49p(2%増)、第5学年47p(7%増)、第6学年49p(1%増)となっている。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、「①考える→②確かめる→③いかす」の3ステップを踏みながら段階的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の配列については、各学年とも発達段階に応じて系統的・発展的に学習ができるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第1学年40p(前回同様)、第2学年40p(前回同様)、第3学年52p(前回同様)、第4学年52p(前回同様)、第5学年52p(前回同様)、第6学年52p(前回同様)となっている。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の課題解決のヒントを与えるキャラクターや国語の教科用図書との関連を図った教材を掲載し、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 児童が課題を選択して学習する教材を設定したり、自己評価欄を設けたりするなど、主体的に取り組む工夫がなされている。 ○ 巻頭に「学習の進め方」や巻末にコラム的な記事を掲載し、使用上の便宜が図られている。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標の達成に向けたヒントを投げかけるキャラクターや教科用図書との関連を図った言語活動を取り入れ、学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 教材ごとに学習内容について自己評価欄を設けたり、まとめて課題が設定できるようにするなど、主体的に取り組む工夫がなされている。 ○ 巻頭に「学習のめあて」や巻末に次の学年の学習内容を掲載し、使用上の便宜が図られている。 		
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受け、読みやすく、分かりやすい紙面構成・配色を実現している。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育の観点から図版の配色や形状など、ユニバーサルデザインに配慮している。 		